

説教「共に生きる」

(詩編40編8-12節 マタイによる福音書4章18-22節)

2021年1月17日

日本基督教団仙川教会主日礼拝

大串肇牧師

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」

イエスの招きによって最初の弟子たちが生まれました。彼らこそ、イエスのガリラヤ伝道を助け、イエスの十字架・復活後においても復活の主に従って生きる弟子たち、後にキリスト教の指導者となる使徒たちです。

この主の共同体がその宣教の開始にあつてガリラヤに生まれたことが大変重要な意味を持っています。

彼らは特別な人たちではありません。いわば「フツウ」の人たちであったことを聖書は強調しています。また、彼らの詳しいプロフィールは、マタイ福音書では「彼らは漁師だった」とだけ書かれているだけです。彼らはイエスのことをあらかじめ知っていたのでしょうか。イエスの評判は知っていたかもしれませんが、前からのつながりや関係はあまりなかったはずで、十分な知識もなかったでしょう。

まさに突然、思いもよらなかったようにイエスとの出会いが起こるのです。しかもその出会いは彼らからではなく、イエスの方からなのです。最初に気づいたのは弟子たちではなく、イエスが気づいたのです。近づいて声をかけたのは弟子たちからではなく、イエスの方から近づいて声をかけたのです。

しかもたった一言だけでした。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と(19節)。

この主イエスの命令はイエスに従う主の弟子になることを意味します。「人間をとる漁師にしよう」という言葉は、彼らがやがて福音の伝道者になることを約束しています。もちろんここではイエスのガリラヤ伝道を手伝いする意味ですが、やがてイエスの復活後、弟子たちは初代教会を指導し、世界中に福音を宣べ伝える使徒となる未来への展望がこの一文の中に込められています。マタイ福音書はマルコ福音書と異なってあえて「ペトロ」という名前を記しています。「ペトロ」とはヘブライ語では「ケファ」のことであり、「岩」という言葉なのです。この名前をペトロはイエスから頂きます。それは、やがてペトロが教会の礎を築き、初代教会の指導者となることを意味します。しかしながらこのことを先取りするかのように、マタイ福音書はこの召命の記事にわざわざ

ざ明記しているのです。

ペトロとアンデレの兄弟は「**すぐに網を捨てて従**」(20節) いました。また別の二人の兄弟ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネにもイエスは声をかけ、彼らもイエスに従いました(22節)。こうしてイエスに従う弟子たちが生まれたのです。これこそ主にある信仰共同体であり、イエスと共に生きる交わりの開始です。こうしてガリラヤ伝道が本格的に始まります。23-25節には以下のように記されています。

イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。そこで、イエスの評判がシリア中に広まった。人々がイエスのところへ、いろいろな病気や苦しみに悩む者、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、中風の者など、あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々をいやされた。こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。

「**大勢の群衆が来てイエスに従った**」とあります(25節)。彼らはおそらくユダヤ人たちではなかったのではないのでしょうか。シリアまでイエスの評判が広がったのですから、後に多くの人たちもイエスの元にやってきた。彼らがなぜイエスに従ったのか、その理由は書かれていません。書かれているのは、イエス自らが彼らに福音の御言葉を語り、彼らを癒したのです。弟子たちを召したとき、声をかけ、行動しているのは専らイエスの方でした。その時と同じようにイエスがお働きになられたのです。まさに伝道とは主のなさる御業であり、わたしたちはその主にさまに「**従って**」いけばいいのです。

この最初の弟子たちの召命、ガリラヤでの大勢の人々の悔い改めの出来事こそ、今日の教会のあるべき姿、信仰者の姿が指し示されていると思います。信仰の基本は変わらない。イエスが今なおわたしたちに近づき、語りかけ、わたしたちはひとり一人「御言葉を聞いて」、それに「**従う**」ことであると言えるのではないのでしょうか。

今朝わたしたち一人ひとりに主イエスは語りかけ、わたしたちに「**従いなさい**」と語りかけています。その御言葉の受け止め方は一人ひとり違うのかもしれませんが、わたしたちが十分知識があるからでも、経験や能力があるから信仰をもつことができるのではないのです。今も生きて働く主を信じて従って生きる心が与えられることがきわめて重要なことではないのでしょうか。

主イエス・キリストはわたしたちすべてを罪と死の中から救い出し、新しい命にみちた生活に招いて下さっているのです。キリストと共に生きる。どのよ

うな人であっても同じわたしたちの主イエス・キリストの交わりに招かられている。これが福音の恵みなのです。御声を語りつつ、わたしたちを罪と死から救い出すために先頭を歩まれているのは復活の主イエス・キリストです。わたしたちはこの主イエスを信頼してみ後に従って、キリストと共に生きる幸いにご一緒に与ってまいりましょう。お祈り致しましょう。